

こまめな温度管理で健苗育成！ 適期に移植して初期生育量を確保！！

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動本部

◎今後の気象

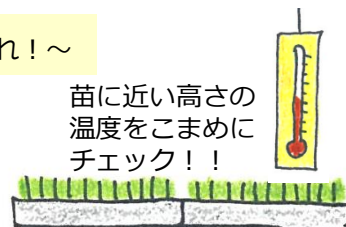
4月24日発表の東北地方の1か月予報（4月26日～5月25日）では、平年に比べて気温は高く、日照時間は平年並みか少ない見込みです。特に5月3日から9日の気温が平年より高くなる見込みです。

◎当面の技術対策

（1）育苗ハウス内の温度変化に注意！～晴天時は高温障害発生の恐れ！～

- 曇りで気温が低くても、日中、わずかに晴れただけで育苗ハウス内の温度は急激に高まります。育苗ハウス等の換気を積極的に行うなど、育苗ハウス内の温度上昇を抑えましょう。

苗に近い高さの温度をこまめにチェック！！



- 緑化期以降、育苗ハウス等の温度は、日中は20～25℃で管理し、夜間は8℃を下回らないようにして、徐々に外気に慣らしていきます。早めにハウス外に近い環境で管理するように心がけましょう。

育苗ハウスの換気や温度管理の参考に「高温アラート」をご活用ください！

選択したアメダス地点の気温が設定した温度を上回ると、メールが届きます。利用には、「やまがたアグリネット」への会員登録が必要です（無料）。



詳しくはこちらから！

（2）根張りを良くする水管理

かん水は、床土の乾き具合や苗の水滴の付き具合を見て判断し、午前中の早い時間にたっぷりと行いましょう。なお、夕方や夜間のかん水は、床土の温度を下げ、根張りが悪くなるので避けましょう。

（3）田植えは天気の良い日に

- 田植えは、天気予報を確認し、風が弱く温暖な日を選んで適期に行いましょう。低温や強風の日の田植えは、活着や初期生育が劣るので避けましょう。
- 栽植密度は生育、収量、品質に大きな影響を及ぼします。最適な栽植密度は、m²当たり21～23株です。植込本数は株当たり4～5本としてm²当たり100本程度となるように移植しましょう。

STOP! 農作業事故

春季農作業事故防止運動強化期間(4/1～6/10)



農林水産省